

Q001 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、事例の総合的アセスメントの説明として最も適切なものはどれか。

- A. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。
- B. 家族介護者の身体的・心理的・社会的負担を把握すること。
- C. 認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。
- D. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。

答え・解説

正答：D. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。

超簡単な解説：事例の総合的アセスメントは、身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。

Q002 事例 | 4択 | 標準

問題

施設入所中の利用者で、優先順位の判断を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。
- B. 危険があっても、本人の様子を観察せずに同じ方法を続ける。
- C. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- D. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。

答え・解説

正答：A. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。

超簡単な解説：優先順位の判断では、急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。この対応が適切である。

Q003 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で多問題事例への対応を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 本人のできる力より、すべて介助することが自立支援になるため。
- B. 複合課題には多機関連携が必要だから。
- C. 介護者の作業時間を短縮することが、常に最優先になるため。
- D. 本人が不安を訴えても、支援計画を変更してはならないため。

答え・解説

正答：B. 複合課題には多機関連携が必要だから。

超簡単な解説：多問題事例への対応を重視する理由は、複合課題には多機関連携が必要だから。

Q004 事例 | 4択 | 応用

問題

Dさんは退院支援と在宅生活に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- B. 本人の訴えを受け止め、退院前カンファレンスで移動能力や住宅環境、家族の不安を共有する。
- C. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- D. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、退院前カンファレンスで移動能力や住宅環境、家族の不安を共有する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、退院支援と在宅生活の観点から本人中心に対応する。

Q005 事例 | 4択 | 標準

問題

認知症事例の環境調整の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- C. 夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。
- D. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。

答え・解説

正答：B. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。

超簡単な解説：認知症事例の環境調整では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q006 事例 | 4択 | 標準

問題

介護者負担の評価に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。
- D. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

答え・解説

正答：D. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q007 事例 | 4択 | 基礎

問題

虐待疑いの初期対応に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。
- B. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- D. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。

答え・解説

正答：C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q008 事例 | 4択 | 応用

問題

看取り期の意思確認を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 計画は職員の作業負担だけを書き、本人の目標は含めない。
- B. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- C. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

答え・解説

正答：D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q009 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、障害と高齢の重複課題の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 障害福祉と介護保険、医療、家族支援など複数制度が関わる課題。
- B. 事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。
- C. 退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。
- D. 終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。

答え・解説

正答：A. 障害福祉と介護保険、医療、家族支援など複数制度が関わる課題。

超簡単な解説：障害と高齢の重複課題は、障害福祉と介護保険、医療、家族支援など複数制度が関わる課題。

Q010 事例 | 4択 | 標準

問題

在宅で生活する利用者で、事故後の再発防止を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。
- B. 転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。
- C. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。
- D. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。

答え・解説

正答：C. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。

超簡単な解説：事故後の再発防止では、転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。この対応が適切である。

Q011 事例 | 4択 | 応用

問題

Eさんは事例の総合的アセスメントに関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- B. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- C. 本人の訴えを受け止め、転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。
- D. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。

答え・解説

正答：C. 本人の訴えを受け止め、転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、事例の総合的アセスメントの観点から本人中心に対応する。

Q012 事例 | 4択 | 標準

問題

優先順位の判断の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。
- C. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。
- D. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。

答え・解説

正答：C. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。

超簡単な解説：優先順位の判断では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q013 事例 | 4択 | 標準

問題

多問題事例への対応に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- B. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。
- C. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- D. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。

答え・解説

正答：C. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q014 事例 | 4択 | 基礎

問題

退院支援と在宅生活に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- B. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- D. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけを続ける。

答え・解説

正答：C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q015 事例 | 4択 | 応用

問題

認知症事例の環境調整を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- B. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。
- C. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- D. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。

答え・解説

正答：A. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q016 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、介護者負担の評価の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 家族介護者の身体的・心理的・社会的負担を把握すること。
- B. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。
- C. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。
- D. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。

答え・解説

正答：A. 家族介護者の身体的・心理的・社会的負担を把握すること。

超簡単な解説：介護者負担の評価は、家族介護者の身体的・心理的・社会的負担を把握すること。

Q017 事例 | 4択 | 標準

問題

在宅で生活する利用者で、虐待疑いの初期対応を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。
- B. 本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。
- C. 転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。
- D. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。

答え・解説

正答：B. 本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。

超簡単な解説：虐待疑いの初期対応では、本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。この対応が適切である。

Q018 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で看取り期の意思確認を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 看取り期でも本人の尊厳と意思決定支援が重要だから。
- B. 本人のできる力より、すべて介助することが自立支援になるため。
- C. 早期発見と安全確保を両立する必要があるため。
- D. 制度の切れ目が生活の困難につながるため。

答え・解説

正答：A. 看取り期でも本人の尊厳と意思決定支援が重要だから。

超簡単な解説：看取り期の意思確認を重視する理由は、看取り期でも本人の尊厳と意思決定支援が重要だから。

Q019 事例 | 4択 | 応用

問題

Aさんは障害と高齢の重複課題に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- B. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- C. 本人の訴えを受け止め、利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。
- D. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。

答え・解説

正答：C. 本人の訴えを受け止め、利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、障害と高齢の重複課題の観点から本人中心に対応する。

Q020 事例 | 4択 | 標準

問題

事故後の再発防止の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。
- C. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- D. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。

答え・解説

正答：C. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。

超簡単な解説：事故後の再発防止では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q021 事例 | 4択 | 基礎

問題

事例の総合的アセスメントに関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- B. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- C. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。
- D. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

答え・解説

正答：D. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q022 事例 | 4択 | 応用

問題

優先順位の判断を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- B. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- C. 計画は職員の作業分だけを書き、本人の目標は含めない。
- D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

答え・解説

正答：D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q023 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、多問題事例への対応の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。
- B. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。
- C. 終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。
- D. 認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。

答え・解説

正答：A. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。

超簡単な解説：多問題事例への対応は、認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。

Q024 事例 | 4択 | 標準

問題

施設入所中の利用者で、退院支援と在宅生活を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。
- B. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。
- C. 退院前カンファレンスで移動能力や住環境、家族の不安を共有する。
- D. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

答え・解説

正答：C. 退院前カンファレンスで移動能力や住環境、家族の不安を共有する。

超簡単な解説：退院支援と在宅生活では、退院前カンファレンスで移動能力や住環境、家族の不安を共有する。この対応が適切である。

Q025 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で認知症事例の環境調整を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 複合課題には多機関連携が必要だから。
- B. 行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。
- C. 安全確認は医療職だけが行うため。
- D. 早期発見と安全確保を両立する必要があるため。

答え・解説

正答：B. 行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。

超簡単な解説：認知症事例の環境調整を重視する理由は、行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。

Q026 事例 | 4択 | 応用

問題

Bさんは介護者負担の評価に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- B. 本人の訴えを受け止め、家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。
- C. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- D. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、介護者負担の評価の観点から本人中心に対応する。

Q027 事例 | 4択 | 標準

問題

虐待疑いの初期対応の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。
- C. 危険があっても、本人の様子を観察せずに同じ方法続ける。
- D. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。

答え・解説

正答：C. 危険があっても、本人の様子を観察せずに同じ方法続ける。

超簡単な解説：虐待疑いの初期対応では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q028 事例 | 4択 | 標準

問題

看取り期の意思確認に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。
- D. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

答え・解説

正答：D. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q029 事例 | 4択 | 基礎

問題

障害と高齢の重複課題に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- C. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。
- D. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。

答え・解説

正答：B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q030 事例 | 4択 | 応用

問題

事故後の再発防止を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- B. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。
- C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- D. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。

答え・解説

正答：C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q031 事例 | 4択 | 標準

問題

通所介護を利用する高齢者で、事例の総合的アセスメントを踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- B. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。
- C. 転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。
- D. 急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。

答え・解説

正答：C. 転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。

超簡単な解説：事例の総合的アセスメントでは、転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。この対応が適切である。

Q032 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で優先順位の判断を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。
- B. 介護者の作業時間を短縮することが、常に最優先になるため。
- C. 家族の希望は常に本人の意思より優先されるため。
- D. 緊急性の高い問題を見逃すと重大事故につながるため。

答え・解説

正答：D. 緊急性の高い問題を見逃すと重大事故につながるため。

超簡単な解説：優先順位の判断を重視する理由は、緊急性の高い問題を見逃すと重大事故につながるため。

Q033 事例 | 4択 | 応用

問題

Cさんは多問題事例への対応に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 本人の訴えを受け止め、介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。
- B. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- C. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- D. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。

答え・解説

正答：A. 本人の訴えを受け止め、介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、多問題事例への対応の観点から本人中心に対応する。

Q034 事例 | 4択 | 標準

問題

退院支援と在宅生活の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。
- C. 危険があっても、本人の様子を観察せずに同じ方法を続ける。
- D. 退院前カンファレンスで移動能力や住環境、家族の不安を共有する。

答え・解説

正答：C. 危険があっても、本人の様子を観察せずに同じ方法を続ける。

超簡単な解説：退院支援と在宅生活では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q035 事例 | 4択 | 標準

問題

認知症事例の環境調整に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。
- B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- C. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- D. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。

答え・解説

正答：B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q036 事例 | 4択 | 基礎

問題

介護者負担の評価に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- C. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。
- D. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。

答え・解説

正答：B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q037 事例 | 4択 | 応用

問題

虐待疑いの初期対応を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- B. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- D. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。

答え・解説

正答：C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q038 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、看取り期の意思確認の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。
- B. 家族介護者の身体的・心理的・社会的負担を把握すること。
- C. 終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。
- D. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。

答え・解説

正答：C. 終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。

超簡単な解説：看取り期の意思確認は、終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。

Q039 事例 | 4択 | 標準

問題

施設入所中の利用者で、障害と高齢の重複課題を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。
- B. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- C. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。
- D. 利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。

答え・解説

正答：D. 利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。

超簡単な解説：障害と高齢の重複課題では、利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。この対応が適切である。

Q040 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で事故後の再発防止を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 再発防止にはシステム全体の改善が必要だから。
- B. 介護者の限界は在宅生活の継続に影響するため。
- C. 本人のできる力より、すべて介助することが自立支援になるため。
- D. 行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。

答え・解説

正答：A. 再発防止にはシステム全体の改善が必要だから。

超簡単な解説：事故後の再発防止を重視する理由は、再発防止にはシステム全体の改善が必要だから。

Q041 事例 | 4択 | 標準

問題

事例の総合的アセスメントの観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。
- C. 転倒だけでなく、薬、睡眠、環境、本人の不安を合わせて確認する。
- D. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。

答え・解説

正答：D. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。

超簡単な解説：事例の総合的アセスメントでは、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q042 事例 | 4択 | 標準

問題

優先順位の判断に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- D. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。

答え・解説

正答：A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q043 事例 | 4択 | 基礎

問題

多問題事例への対応に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- C. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- D. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけを続ける。

答え・解説

正答：B. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q044 事例 | 4択 | 応用

問題

退院支援と在宅生活を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- B. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- C. 計画は職員の作業分だけを書き、本人の目標は含めない。
- D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

答え・解説

正答：D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q045 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、認知症事例の環境調整の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。
- B. 事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。
- C. 障害福祉と介護保険、医療、家族支援など複数制度が関わる課題。
- D. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。

答え・解説

正答：A. 認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。

超簡単な解説：認知症事例の環境調整は、認知症の症状と生活環境の関係を見て、安心できる環境を整えること。

Q046 事例 | 4択 | 標準

問題

一人暮らしの利用者で、介護者負担の評価を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 退院前カンファレンスで移動能力や住宅環境、家族の不安を共有する。
- B. 本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。
- C. 家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。
- D. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

答え・解説

正答：C. 家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。

超簡単な解説：介護者負担の評価では、家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。この対応が適切である。

Q047 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で虐待疑いの初期対応を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 家族の希望は常に本人の意思より優先されるため。
- B. 病院でできる動作が自宅でも安全とは限らないため。
- C. 単一原因で決めつけると支援がずれるため。
- D. 早期発見と安全確保を両立する必要があるため。

答え・解説

正答：D. 早期発見と安全確保を両立する必要があるため。

超簡単な解説：虐待疑いの初期対応を重視する理由は、早期発見と安全確保を両立する必要があるため。

Q048 事例 | 4択 | 応用

問題

Fさんは看取り期 of 意思確認に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- B. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- C. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- D. 本人の訴えを受け止め、本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

答え・解説

正答：D. 本人の訴えを受け止め、本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、看取り期の意思確認の観点から本人中心に対応する。

Q049 事例 | 4択 | 標準

問題

障害と高齢の重複課題の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 利用制度を一つに限定せず、相談支援専門員やケアマネジャーと連携する。
- B. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- C. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。
- D. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。

答え・解説

正答：C. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。

超簡単な解説：障害と高齢の重複課題では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q050 事例 | 4択 | 標準

問題

事故後の再発防止に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- D. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。

答え・解説

正答：A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q051 事例 | 4択 | 応用

問題

事例の総合的アセスメントを支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- B. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- C. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。
- D. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。

答え・解説

正答：B. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q052 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、優先順位の判断の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 生命・安全・尊厳・本人の希望を踏まえ、先に対応すべき課題を判断すること。
- B. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。
- C. 退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。
- D. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。

答え・解説

正答：A. 生命・安全・尊厳・本人の希望を踏まえ、先に対応すべき課題を判断すること。

超簡単な解説：優先順位の判断は、生命・安全・尊厳・本人の希望を踏まえ、先に対応すべき課題を判断すること。

Q053 事例 | 4択 | 標準

問題

一人暮らしの利用者で、多問題事例への対応を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。
- B. 退院前カンファレンスで移動能力や住宅環境、家族の不安を共有する。
- C. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。
- D. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

答え・解説

正答：A. 介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。

超簡単な解説：多問題事例への対応では、介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。この対応が適切である。

Q054 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で退院支援と在宅生活を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 早期発見と安全確保を両立するためがあるため。
- B. 介護者の限界は在宅生活の継続に影響するため。
- C. 病院でできる動作が自宅でも安全とは限らないため。
- D. 本人が不安を訴えても、支援計画を変更してはならないため。

答え・解説

正答：C. 病院でできる動作が自宅でも安全とは限らないため。

超簡単な解説：退院支援と在宅生活を重視する理由は、病院でできる動作が自宅でも安全とは限らないため。

Q055 事例 | 4択 | 応用

問題

Aさんは認知症事例の環境調整に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- B. 本人の訴えを受け止め、夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。
- C. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- D. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、認知症事例の環境調整の観点から本人中心に対応する。

Q056 事例 | 4択 | 標準

問題

介護者負担の評価の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。
- B. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。
- C. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。
- D. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。

答え・解説

正答：B. 羞恥心やプライバシーへの配慮より、作業の速さを優先する。

超簡単な解説：介護者負担の評価では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q057 事例 | 4択 | 標準

問題

虐待疑いの初期対応に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- D. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。

答え・解説

正答：C. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q058 事例 | 4択 | 基礎

問題

看取り期の意思確認に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- B. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- C. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけを続ける。
- D. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。

答え・解説

正答：A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q059 事例 | 4択 | 応用

問題

障害と高齢の重複課題を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- B. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- C. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。
- D. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。

答え・解説

正答：B. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q060 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、事故後の再発防止の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。
- B. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。
- C. 終末期に本人の希望、苦痛、家族の思いを確認し、チームで共有すること。
- D. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。

答え・解説

正答：A. 事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。

超簡単な解説：事故後の再発防止は、事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。

Q061 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で事例の総合的アセスメントを重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 記録は事故が起きた場合だけ作成すればよいため。
- B. 行動だけでなく背景要因に対応するため。
- C. 単一原因で決めつけると支援がずれるため。
- D. 緊急性の高い問題を見逃すと重大事故につながるため。

答え・解説

正答：C. 単一原因で決めつけると支援がずれるため。

超簡単な解説：事例の総合的アセスメントを重視する理由は、単一原因で決めつけると支援がずれるため。

Q062 事例 | 4択 | 応用

問題

Bさんは優先順位の判断に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- B. 本人の訴えを受け止め、急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。
- C. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。
- D. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、急な呼吸苦や意識変化があれば、活動支援より安全確認と報告を優先する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、優先順位の判断の観点から本人中心に対応する。

Q063 事例 | 4択 | 標準

問題

多問題事例への対応の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。
- B. 介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。
- C. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- D. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。

答え・解説

正答：D. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。

超簡単な解説：多問題事例への対応では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q064 事例 | 4択 | 標準

問題

退院支援と在宅生活に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- C. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- D. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。

答え・解説

正答：B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q065 事例 | 4択 | 基礎

問題

認知症事例の環境調整に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- B. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- C. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- D. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。

答え・解説

正答：A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q066 事例 | 4択 | 応用

問題

介護者負担の評価を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- B. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。
- C. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

答え・解説

正答：D. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q067 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、虐待疑いの初期対応の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 身体・心理・社会・環境の情報を統合し、生活課題を整理すること。
- B. 認知症、家族負担、経済不安、住環境など複数課題を連携して支えること。
- C. 退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。
- D. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。

答え・解説

正答：D. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。

超簡単な解説：虐待疑いの初期対応は、不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。

Q068 事例 | 4択 | 標準

問題

家族と同居する利用者で、看取り期意思確認を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。
- B. できる動作もすべて介助し、本人が試す機会をなくす。
- C. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。
- D. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。

答え・解説

正答：C. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。

超簡単な解説：看取り期意思確認では、本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。この対応が適切である。

Q069 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で障害と高齢の重複課題を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 家族の希望は常に本人の意思より優先されるため。
- B. 看取り期でも本人の尊厳と意思決定支援が重要だから。
- C. 複合課題には多機関連携が必要だから。
- D. 制度の切れ目が生活の困難につながるため。

答え・解説

正答：D. 制度の切れ目が生活の困難につながるため。

超簡単な解説：障害と高齢の重複課題を重視する理由は、制度の切れ目が生活の困難につながるため。

Q070 事例 | 4択 | 応用

問題

Dさんは事故後の再発防止に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- B. 本人の訴えを受け止め、転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。
- C. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- D. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、転倒後は床環境、靴、照明、移動方法、見守り体制を確認する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、事故後の再発防止の観点から本人中心に対応する。

Q071 事例 | 4択 | 標準

問題

事例の総合的アセスメントに関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。
- B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- C. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- D. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。

答え・解説

正答：B. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q072 事例 | 4択 | 基礎

問題

優先順位の判断に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- B. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- C. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけを続ける。
- D. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。

答え・解説

正答：A. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。

Q073 事例 | 4択 | 応用

問題

多問題事例への対応を支援計画に反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- A. 一度作った計画は状態が変わっても変更しない。
- B. 評価は行わず、支援回数だけを増やす。
- C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。
- D. 計画は職員の作業分担だけを書き、本人の目標は含めない。

答え・解説

正答：C. 本人の希望と観察事実をもとに目標を立て、実施後に評価して見直す。

超簡単な解説：介護過程では、本人の希望と観察事実に基づき計画を立て、実施後に評価して修正する。

Q074 事例 | 4択 | 基礎

問題

次のうち、退院支援と在宅生活の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 事故原因を個人責任だけにせず、環境・手順・情報共有を見直すこと。
- B. 不自然な外傷や怯え、介護者の疲弊などを観察し、記録・報告・相談につなげること。
- C. 退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。
- D. 認知症の症状と生活環境の関係をみて、安心できる環境を整えること。

答え・解説

正答：C. 退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。

超簡単な解説：退院支援と在宅生活は、退院後のADL、服薬、住環境、家族支援、サービス利用を整えること。

Q075 事例 | 4択 | 標準

問題

家族と同居する利用者で、認知症事例の環境調整を踏まえた介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- A. 家族の睡眠不足や孤立、介護継続への不安を確認する。
- B. 本人の意向を確認せず、職員の都合だけで支援内容を決める。
- C. 介護職だけで抱え込まず、ケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぐ。
- D. 夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。

答え・解説

正答：D. 夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。

超簡単な解説：認知症事例の環境調整では、夜間不穏では照明、トイレ表示、生活リズム、痛みを確認する。この対応が適切である。

Q076 事例 | 4択 | 標準

問題

介護実践で介護者負担の評価を重視する理由として、最も適切なものはどれか。

- A. 記録は事故が起きた場合だけ作成すればよいから。
- B. 介護者の限界は在宅生活の継続に影響するため。
- C. 再発防止にはシステム全体の改善が必要だから。
- D. 行動だけでなく背景要因に対応する必要があるため。

答え・解説

正答：B. 介護者の限界は在宅生活の継続に影響するため。

超簡単な解説：介護者負担の評価を重視する理由は、介護者の限界は在宅生活の継続に影響するため。

Q077 事例 | 4択 | 応用

問題

Eさんは虐待疑いの初期対応に関して不安を訴えている。介護職が最初に行う対応として最も適切なものはどれか。

- A. 記録や報告をせず、その場の判断だけで済ませる。
- B. 本人の訴えを受け止め、本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。
- C. 不安を否定し、すぐに別の話題へ変える。
- D. 本人に説明せず、職員だけで対応を決める。

答え・解説

正答：B. 本人の訴えを受け止め、本人や家族を一方的に責めず、事実を記録し手順に沿って相談する。

超簡単な解説：不安の訴えには受容と確認が必要であり、虐待疑いの初期対応の観点から本人中心に対応する。

Q078 事例 | 4択 | 標準

問題

看取り期の意思確認の観点から、最も避けるべき対応はどれか。

- A. 本人の理解度に合わせて説明し、同意を確認する。
- B. 本人が望む過ごし方や苦痛の有無を確認し、医療職と連携する。
- C. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。
- D. 観察した事実を記録し、必要に応じてチームへ共有する。

答え・解説

正答：C. 本人の発言を否定し、説得して職員の考えに合わせる。

超簡単な解説：看取り期の意思確認では、本人の尊厳・安全・意思を損なう対応は避ける必要がある。

Q079 事例 | 4択 | 標準

問題

障害と高齢の重複課題に関する情報をチームで共有する場面で、最も適切な対応はどれか。

- A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。
- B. 家族の希望だけを根拠に、本人の生活歴や意思を確認しない。
- C. 変化があっても次の勤務者には伝えず、記録も省略する。
- D. 本人に確認せず、職員間で都合のよい方法を決めて実施する。

答え・解説

正答：A. 観察した事実、本人の発言、実施した対応を分けて記録し、必要な職種へ共有する。

超簡単な解説：チーム共有では、主観と事実を分け、本人の発言・観察結果・対応内容を具体的に伝える。

Q080 事例 | 4択 | 基礎

問題

事故後の再発防止に関連して介護職が観察する内容として、最も適切なものはどれか。

- A. 本人の反応を見ずに、全員へ同じ方法を用いる。
- B. 介護者の印象だけを記録し、具体的な事実は残さない。
- C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。
- D. 問題が起きるまで観察せず、定型的な介助だけ続ける。

答え・解説

正答：C. 普段との違い、本人の訴え、客観的な状態変化を確認する。

超簡単な解説：介護職の観察では、普段との違い、本人の訴え、客観的事実を具体的に確認する。